

第2次芦屋市健康増進・食育推進計画策定に向けたヒヤリングシート すこやか親子21計画

【資料2】

平成21年7月に策定したみだしの計画について、平成24年度は評価と次期計画の策定年度となります。つきましては、各課が担っていただける食育や健康づくりに係る施策の実績状況や現状と課題、及び今後の方向性等お聞きし、計画づくりの参考とさせていただきますための調査を実施します。大変お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願い致します。

\*市民参加の事業は、年間開催件数と参加人数を記入し、教室的な事業の場合は、実人数と延べ人数に分けてご記入ください。健診等受診率の分かるものは受診率をご記入ください。

\*市民向けて啓発活動は、どのような方法で周知したのか、簡単にご記入ください。パンフレット等参考となる物があれば、添付してください。

\*評価・現状課題については、H.21年度実績からH.23年度実績を踏まえて、A：方向性どおり実施できた、B：方向性とおり実施できなかったが、継続実施できた、C：規模・事業内容を縮小した、を記入してください。また、事業実施にあたっての現状・課題をご記入ください。

\*計画については、5年後に向けた今後の方向性を考慮し、次年度以降の取り組み内容をご記入ください。（現行計画の事業内容を参照してご記入ください。）方向性については、新規、継続、拡充、を記入してください。

現行計画の記載内容				実績			評価・現状課題		計画			
分野別	事業名	事業内容	担当課	方向性	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績	評価	現状と課題	事業内容	5年後に向けた方向性	
食生活	プレおや教室	マタニティークッキング	健康課	拡充	実45人 延84人	実82人 延157人	実50人 延92人	B	参加人数は低迷している。実績を増やし更なる妊娠時期の健康教育の充実が課題。	マタニティークッキングは継続して2回シリーズの講座で、仲間づくりをめざしたグループワーク、妊娠時期の知識習得のための講話、調理実習を行う。また、より参加人数が増えるよう啓発していく。パパママ教室と沐浴教室は夫婦で育児を目的に継続して土曜日開催する。	拡充	
		パパママ教室			実96人 延206人	実89人 延189人	実89人 延193人	A	夫も参加できる教室は開催希望が多い。夫の育児参加を促し、愛着関係の重要性についての知識普及は継続していく。		継続	
		沐浴教室			実106人 延182人	実100人 延192人	実98人 延189人	A	参加人数も多く実際に沐浴実習ができるため満足度が高い。継続開催の希望も多い。		継続	
食事づくり	こどもの食生活改善推進事業	「母と子の料理教室」「おやこの食育教室」「親子で考える食の体験教室」等、幼児や学童を対象に開催しています。	芦屋健康福祉事務所・芦屋栄養士会・いずみ会	継続	【芦屋いずみ会主催事業】 ○母と子の料理教室 4回 136人 ○おやこの食育教室 2回 68人 ○子どものための食育活動 5回 125人 ○親子で考える食の体験教室 4回 100人（21年度で終了） ○ピギナス親子料理教室 3回 79人 ○学童料理教室(打出浜小学校) 1回 56人 【芦屋健康福祉事務所・芦屋栄養士会共催】 ○パパとキッズの料理教室 1回 33人 【芦屋栄養士会主催】 ○親子で考える食の体験教室 3回 146人（21年度で終了）	【芦屋いずみ会主催事業】 ○おやこの食育教室 2回 50人 ○朝ごはんキャンペーン(ひょうご元気アップ子ども食育事業) 1回 33人 ○ピギナス親子料理教室(ひょうご元気アップ子ども食育事業) 4回 86人 ○学童料理教室 1回 60人 【芦屋健康福祉事務所・芦屋栄養士会共催】 ○パパとキッズの料理教室 1回 33名	【芦屋いずみ会主催】 ○おやこの食育教室 2回 68人 ○朝ごはんキャンペーン(ひょうご元気アップ子ども食育事業) 1回 33人 ○ピギナス親子料理教室(ひょうご元気アップ子ども食育事業) 4回 118人 ○親子チャレンジ生活リズムアップキャンペーン 3回 200人 ○子育てママの料理教室 5回 62人 ○学童保育ケーキ作り 1回 53人 【市こども課・芦屋栄養士会共催】 ○キッズ料理教室 1回 12人 ○パパとキッズの料理教室 1回 25人 ○ひとり親家庭年末のつどい(親子クッキング) 1回 26人 【子育てセンター・芦屋栄養士会共催】 ○子育てヘルぱらクッキング 2回 26人	A	【芦屋いずみ会主催】 ○概ね計画通り実施できた。 ○料理教室は、参加者アンケートより満足度の高いものとなり、リピーターも多い。 ○子育てママの料理教室は、H23年度より実施。参加者数は毎回10名程度と少なかったが、参加者アンケートより満足度高く、ほとんどの方が継続を希望されていた。口コミで参加希望者も増えている。 【芦屋健康福祉事務所・芦屋栄養士会共催】 ○しかし、参加者の9割に次年度もぜひ参加したいという希望があり、満足度の高い講座であると確信が得られた。 【子育てセンター・芦屋栄養士会共催】 ○食育事業の申し込みが多く各料理教室は10名～25名参加。様々な協力機関との連携ができた。 パパとキッズの料理教室は4年目を迎え好評。その他の料理教室も料理に関心を持ってもらうことができ評価できると思う。	【芦屋いずみ会主催】 ○より広く啓発するため、活動場所の拡充を検討するも、予算等の問題で、事業実施場所が限られている。 ○事業の対象は幼児及び学童となっているが、小学生は夏休み中であっても参加率が低い。 【市こども課・子育てセンター・芦屋栄養士会共催】 ○ニーズはあるものの、出務できる担当者が限られている。 【共通】 ○無関心層へのPR	【芦屋母と子の料理教室」「おやこの食育教室」、「子育てママの料理教室」、「パパとキッズの料理教室」等、幼児期、学童期に加え子育て世代も対象に開催。	継続
	栽培保育やクッキング保育の実施	身近な野菜や芋等の栽培を通じて好きな食べ物を増やすとともに、収穫した野菜や芋等を使って調理し、楽しく食べる実践力を身につけます。	こども課	継続	・栽培保育の実施収穫物のクッキング実施 ・年数回のクッキング保育の実施	・栽培保育の実施収穫物のクッキング実施 ・年数回のクッキング保育の実施	・栽培保育の実施収穫物のクッキング実施 ・年数回のクッキング保育の実施	A	・クッキングを行う上で衛生面とアレルギー児童の配慮 ・栽培・クッキングがイベント的なものだけで終わることなく、日々の生活の中でも「食べることは、楽しいこと」に繋げ	栽培・クッキングを通して野菜のもつ自然の香りや成長していく姿にふれ、感謝の気持ちを育て、楽しく食べることを学び、好きな食べ物を増やしていき生きる力を身につけてゆきます。	継続	
	もぐもぐ離乳食教室	栄養士、保健師による離乳食の講義と遊び方のお話と試食を提供しています。		継続	・11回実施 ・317名参加(実・延べ) 新タイプにより1回中止	・11回実施 ・346名参加(実・延べ) 天候不良により1回中止	・12回実施 ・350名参加(実・延べ)	A	アンケートより参加者の満足度は高い。	乳児の保護者に、離乳食の講話、試食、手遊び等の紹介を行うことにより、不安を軽減し、食育の推進を図る。	継続	



現行計画の記載内容					実績			評価・現状課題		計画		
分野別	事業名	事業内容	担当課	方向性	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績	評価	現状と課題	事業内容	5年後に向けた方向性	
健康診査及び健康教育	妊婦健康診査 助成事業	妊娠中の健康診査の受診を促進し母体や胎児の健康を確保するため、妊婦健康診査の助成を行っています。	健康課	継続	873件	767件	855件	A	21年度以降1回当たり5を上限に、受診14回まで助成	受診方を する事により、妊婦の方の性を図る。	継続	
	4か月児健康診査	各健診ごとに「育児ブック」や「であってみたいなこんな」等の子を配しています。面・動面あるいは学的発の目となる4か月児・10か月児・16か月児・34か月児を対象にや発のれ、の異などを期に発するため総合的な健診を行うとともに、育児・栄養・し予などの指導・相談・助を行っています。今後、健診時期のしや内容等の充実を図ります。		継続	848(95.3)	831(97.4)	780(96.3)	A	受診率は他の乳幼児健診にへ高く推。今後も受診者の全数にめる。	各健診ごとに「育児ブック」や「であってみたいなこんな」等の子を配しています。4か月児健康診査ではブックスタート事業によるのしを実施しています。面・動面あるいは学的発の目となる4か月児・10か月児・16か月児・3児を対象にや発のれ、の異などを期に発するため総合的な健診を行うとともに、育児・栄養・し予などの指導・相談・助を行っています。今後、健診内容等の充実を図ります。	継続	
	10か月児健康診査			継続	797(92.9)	769(90.9)	786(90.6)	A	受機関と連携し、受診後のフー体制の充実を図る。		継続	
	16か月児健康診査			拡充	810(88.0)	818(92.5)	833(95.2)	A	受診率は上。保健指導の目等、健診内容をし、更に充実させる。		継続	
	3児健康診査			拡充	906(89.9)	983(93.4)	847(92.6)	A	平成21年度中より34月から3へ対象年を上げました。受診率はやや上。保健指導の目等、健診内容をし更に充実させる。		拡充	
	アレルギー健康診査		アレルギー全についての健診と相談を行っています。	健康課	継続	11回実施 91名参加	11回実施 88名参加	11回実施 90名参加	A		受診率は年とおり。健診後の対応を充実させる。	アレルギー全についての健診と相談を行っています。
	アレルギー教室	アレルギー全についての講義や室内の整備や調理実習等を行っています。	継続		6回実施 119名参加	5回実施 112名参加	5回実施 131名参加	A	講義内容により参加者をめることがしいものもある。内容のしが必要。	アレルギー全についての講義や室内の整備、のりピリ等実習を行っています。	継続	
	妊産婦・児・新生児訪問	妊産婦・新生児・乳幼児を対象に助産師、保健師等が家庭訪問をして子育て等の助や相談を行っています。こんにちはちん訪問については、100の実施をめざします。	芦屋健康福祉事務所	拡充	家庭訪問28件	家庭訪問28件	家庭訪問32件	A	芦屋市保健センターとの取り決めにより、出生体重2300満の児については、市より健康福祉事務所へ情報提供があり、家庭訪問を実施。のあったものについては全数フーを行っている。	市が受付ロとなっている機関からの養育ネットを活用した情報提供と、市へ付のあった出生連の中から、出生体重2300満の児等について、市から健康福祉事務所へ情報提供がある。市から情報提供を受けた母子について、保健師による家庭訪問を実施し、養育上の必要な児に対してやかなを実施している。健康福祉事務所においては、機関等と保健が連携し、期から子育てをする母子保健情報提供シテム「養育ネット」のな実施と評価を目的とした養育ネット推進会を開催し、関係機関の連携のにめている。	平成25年4月改正母子保健法施行に、児の家庭訪問が市へされる。当所においても、なに向けて、市保健師等を対象にした研を実施（H23年度5回実施）するとともに、市保健師との訪問を行っている。今後もの動向をふまえながら、市へのや養育が必要な母子に対する体制整備に取り組んでいく。	拡充
					妊産婦270 児3 新生児69	妊産婦242 児24 新生児58	妊産婦197 児37 新生児59	A	児訪問者数が増加している。児の出生の動も必要。	25年度より児訪問が市へされることもあり、健やかな成長発が促されるよう家庭訪問の継続。	拡充	
			581(77.9)		761(96.1)	694(95.5)	A	継続して100の実施を目指す。	こんにちはちん事業も100実施を目指す。	継続		
	乳幼児家庭訪問		健康課	302件	380件	593件	A	訪問者数の増加。今後もに保健師活動が付いていくように訪問は継続。		継続		
	妊産婦健康相談	妊産婦を対象に助産師による別相談を行っています。	健康課	継続	延34人	延29人	延34人	A	相談者はばい。今後の相談体制をしが必要	平成24年度から、育児相談の中で実施。助産師が別の相談に対応。	継続	
育児相談	乳児を対象に、身体計及び保健師と栄養士、助産師によるこどもの発や育児についての別相談を行っています。	継続		延957人	延981人	延1476人	A	実参加人数が大に増加。今後も育児不安の減少を図る。	乳児を対象に、身体計及び保健師と栄養士、助産師によるこどもの発や育児、栄養、母乳についての別相談を行っています。	継続		

現行計画の記載内容					実績			評価・現状課題		計画		
分野別	事業名	事業内容	担当課	方向性	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績	評価	現状と課題	事業内容	5年後に向けた方向性	
3 (2) 母子こどもの健康の確保	育児不安の解に向けた相談指導	アレルギーの離乳食相談	アトピー性 のこどもを持つ保護者等を対象にした栄養士、保健師による 別相談を行っています。		継続	・12回実施 ・延べ54名 実16名参加	・12回実施 ・延べ65名 実26名参加	・12回実施 ・延べ47名 実24名参加	A	実参加人数は、変動なし。1相談者が相談する回数が少なくても問題や不安を解 できるように なってきている。	アトピー性 ・食物アレルギーの心配のあるこどもを持つ保護者等を対象にした栄養士、保健師による 別相談を行っています。	継続
		めだか 教室	ぜん ・ぜん 様気管 と診 された幼 ・保育所の4 児から小学3年生までを対象に10回の 教室を行っています。	健康課	継続	延べ288名 (81 5 )	延べ246名 (68 3 )	延べ346名 (83 2 )	A	H22年より福祉センター 浴室で実施。 開催にしたことで参加率が上 した。	・ 様気管 と診 された幼 ・保育所の4・5 児を対象に ・ 2クール(1クール13回)の 教室を行っています。	継続
		まねっこ	10か月児健診を受診した親子を対象に交流広場の提供をしています。		継続	141人			C	平成22年保健福祉センターに するにあたり、子育てセンターのく くの拡充により終了		
		育児 家庭訪問事業	児童の養育について が必要な家庭に対し、訪問による育児や家事の 助を行うことにより、安定した児童の養育ができるようにめめます。		継続	養育、心理相談 1件(のべ1回)	育児、家事、 栄養指導、 不調相談 3件(のべ15回)	育児相談、 栄養指導 1件(のべ1回)	A	現状：保健センターと定期的な連 会を実施。課題：その他の関係機関とも連携を図り、 を必要とする家庭に に対応するしくみと体制が められる。	育児・養育相談、 事業	継続
		庭開			継続	立6保育所で継続実施、毎1回 1000~ 1130 1313人	立6保育所で継続実施、毎1回 1000~ 1130 873人	立6保育所で継続実施、毎1回 1000~ 1130 785人	B	内容の充実を図る。	今後も事業の周知につとめ、さらに内容を充実させる。	継続
		なかよしひろば	保育所や幼 の庭を開 し、親子が遊べるようにしています。	こども課	継続	市内6 所の幼 庭で毎1回 づつ開催。参加延 人数 12610人	市内6 所の幼 庭で毎1回 づつ開催。参加延 人数 12841人	市内6 所の幼 庭で毎1回 づつ開催。参加延 人数 10557人	A	現状： 庭では、少し大きめの子どもたちも思いり遊 ことができるため、安心安全な 間として ばれている。課題： 者(乳幼児)が低年 してきている。	子育てセンター事業 立幼 6 所の遊 室や 庭を活 し、子育て中の親子を 。育児不安や 室育児 止のため、親子交流、ふれあい指導と育児相談を実施。	継続
		あい・あいー	保護者とこどもが自 に て、遊びを通して他の保護者やこどもとふれあいや交流を めめます。		継続	市内4 所で毎月1回開催 参加延人数 813人	市内4 所で毎月1回開催 参加延人数 792人	市内4 所で毎月1回開催 参加延人数 430人	B	現状：23年度から、市内 の方のために イ においても実施。課題： 者数が年々減少 向。	主任児童 員と民生児童 員が子育て中の親子を 。育児不安や 室育児 止のため、親子交流と育児相談を実施。	継続
		く く	保護者とこどもが気軽に い、相談・交流などを行っています。平成22年開 予定の福祉センターへ し事業の拡大を図ります。		拡充	子育てセンター(大) 毎4日 参加延人数 6912人	年度 中に福祉センターへ 。 毎4日 参加延人数 20925人	市内2 所で開催 ぐくぐ 毎4日、 ぐくぐ 毎2日 参加延人数 27665人	A	現状：福祉センターへ し、施 の充実と事業の拡充を図り、 者が 的に増加した。23年度から、 イ で ぐくぐを め、昔屋	子育てセンター事業 「つどいのひろば」を提供し、子育て中の親子を 。育児不安や 室育児 止のため、親子交流、ふれあい指導と育児相談を実施。	継続
		子育てグループの活動	共施 等をして、 で自主的に活動するグループや 体の活動を し、 のコミュニーづくりを進めていきます。		拡充	15グループが活動	14グループが活動	14グループが活動	A	現状：講師 への助成( 助 )が定着し、自主活動グループの活動が活発になった。課題：23年度で 助がなくなったため、 等の継続 の 夫が必要。	子育てセンター事業 子育て自主活動グループの育成 。活動助成・育児相談を実施	継続
		あそびの広場	1 児・2 児を持つ親とこどもが気軽に い、相談・交流などを行っています。	児童センター	継続	910人 32回 42人 2	891人 33回 60人 3	867人 33回 15人 1	A	毎回定員近くの親子がい、遊びながら各々が交流を図っています。課題としては、 着16組なので定員を えた場合の受け入れが	は親子で自 に遊び、後 に親子体、手遊び、ふれあい 遊び、 のみ聞かせ。毎月 終回は保健師が入り、子どもの健康相談を受けている。	継続
母子健康情報管理シテム	母子保健事業の対象者及び 状況をシテム し、 率的に保健活動を行っています。		継続	継続	継続	継続	B	継続性のある保健活動を行えるように しが必要	母子保健事業の対象者及び 状況をシテム し、 率的に保健活動を行っています。	拡充		

現行計画の記載内容				実績			評価・現状課題		計画		
分野別	事業名	事業内容	担当課	方向性	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績	評価	現状と課題	事業内容	5年後に向けた方向性
その他	母子健康手 等の交付	妊娠 の提出により母子健康手 を交付します。交付時に母子健康手 対策のちらし、ママと食の健康 イ、の健康 ック、芦屋市子育て イ ックあいあい等の資料を提供しています。	健康課	継続	940件	865件	873件	A	妊娠 出 のアンケート 果につくフ ー体制について しが必要。	妊娠 出 の提出により、母子健康手 を交付します。交付時に母子健康手、マ と食の健康 イ、の健康 ック、マタニティマークの配 と妊婦対象の事業の案内を行っています。 の 出しし事業を実施する。	拡充
	の健康フ タ	師会の協力を得て、毎年6月の の衛生 間の事業の中で、小学校2年生を対象としたフッ 物の や ター展等を行っています。		継続	中止	372人 各 70人 フ ルテ302人	435人 各 138人 フ ルテ297人	B	受診者は増加。 健診で指 された 周 を しないよう な指導を行っていく。	各 ・ラ ルテにて、 の無料健診とフッ 素、相談を実施。 ター展示を行い、 の衛生についての普及啓発を行う。	継続
児童の 止対策	乳幼児健康診査 受診者対策	乳幼児健康診査における 受診者について、 受診者調査 の がなく、 受診理 が 不 なる者に対して、受診 の きっかけを 行っていきます。4か月児については、全数 を目標に訪問等を行っています。3 児 の 受診者については、主任児童 員の協力を 得ています。	健康課	拡充	4健 40人 3健 68人	4健 33人 3健 43人	4健 42人 1 74人 3健 67人	B	4 月児の 受診者は全 数。 1 6か月児と3 児の 受診者対策について しが必要。	乳幼児健康診査における 受診者について、 受診者調査 の がなく、 受診理 が 不 なる者に対して、受診 の きっかけを 行っていきます。4か月児については、全数 を目標に訪問等を行っています。3 児 の 受診者については、主任児童 員の協力を 得ています。平成23年度から、1 6か月児 の 受診者に電話・手 ・訪問等での を 行っています。	継続
	家庭児童相談室	様々な家庭や児童の や養育上の問題の相談にに応じています。	こども課	継続	家庭児童相談件数 298件	家庭児童相談件数 273件	家庭児童相談件数 293件	B	現状：相談内容として、 ケー が増加してきている。 課題：資 の向上・体制 が められる。	児童家庭相談全、児童 対応	継続
	こども家庭センターでの	児童 にあった児童に対して調査などに つき、必要に応じて にあった いのこども の 時保護等を行っています。		継続	こども家庭センター への 11件	こども家庭センター への 8件	こども家庭センター への 0件	B	現状：児童 通報の増加 課題： 時保護・施 入所等へのタイミング、また 所後の家庭へ継続したのか かわり方など、相談員の キルの向上や での り体制の連携 が められる。	児童 ・養育 家庭への対応、 時保護 等	継続
	芦屋市要保護児童対策 協会	関係機関の相 連携により、 や 行などの 要保護児童の 期発 及び 保護を 図っています。		拡充	代表者会 2回、 実務者会 4回、 代表者、実務者、 市民対象講 会	代表者会 2回、 実務者会 4回、 代表者、実務者、 市民対象講 会	代表者会 2回、 実務者会 4回、 代表者、実務者研 会	B	現状：会 は、関係機関の 中で定着しつつある。 課題：関係機関それ ぞれの 意識の向上及び連携 が められる。	要保護児童対策 協会 の周知活動、関係 機関の連携、 ケー の やかな対応	継続
こどもの相談	乳幼児健診において、 が必要なこども の継続的な健康相談を行っています。 の必要なこどもと保護者が、保育 士・保健師・心理相談員との遊びを通じて、 親子のかかわりについて理解を め育児不安 の軽減を図っています。今後、実施回数等の 拡大を図ります。	健康課		拡充	延 107人	延 158人	延 153人	A	事業の内容・対象者や フ ー体制について しが必要。	乳幼児健診において、 が必要なこども の継続的な健康相談を行っています。 の必要なこどもと保護者が、保育 士・保健師・心理相談員との遊びを通じて、 親子のかかわりについて理解を め育児不安 の軽減を図っています。今後、実施回数等の 拡大を図ります。	拡充
健診後の グループ			拡充	延 61人	延 49人	延 45人	B	事業の内容・対象者や フ ー体制について しが必要。		拡充	
乳幼児のフォ ープ体制	すくすく学級（児童デイ ーピ ）	発 に課題のあるこどもに な 育及び 等の提供を行っています。	福祉 課	拡充	実人数24人 延人数2296人	実人数26人 延人数2270人	実人数27人 延人数3136人	A	（評価）施 改 事に より2 分を より使 できるようになり、3 児の母子分離保育を 実施することができた。また 人 ・保護者 に加え、他課との連携が よくとれた。（現状課 題）年度当 の 人数 が定員の 数ほどである こと	発 に課題のあるこどもに な 育及び 等の提供を行っています。また24年度か ら入級は概ね1 からであったのを、生後6 ヶ月から にし、 育の必要なこどもが入 級 機にならないよう定員を20名から30 名に増加し、さらに保育内容の充実を図っ ていきます。	継続
	育相談	師や 心理士、理学 法士等が乳幼児の 発 に関する相談や検査を行い、その後の フ ー体制についても検討しています。また、教育相談についても 時に行っていま す。今後、福祉センターへ し事業の拡大 を図ります。	福祉 課・健康 課・学校 教育課	拡充	12回 延86	14回 延37	10回 延38	B	すくすく学級 級児を 対象としたフ ーとし て実施。 育 相談、機 事業等の新規事業及 び、 級後の 者との な連携が必要。	育 相談、機 等との連携により、 多 的に必要な を検討し、導入できるよ う 組みを検討します。	拡充

3 (3) こどものこころのやさかな発 の促進

現行計画の記載内容					実績			評価・現状課題		計画	
分野別	事業名	事業内容	担当課	方向性	平成21年度 実績	平成22年度 実績	平成23年度 実績	評価	現状と課題	事業内容	5年後に向け た方向性
	育児等事業	すくすく学級からの進 確保及び受け入れ体制の整備を図り、保育所・幼 等へのな入所・入 を実現するため、 内の関係各課及び関係機関との連携・情報共 を行う連 会を行っています。今後、関係各課とより 層の連携を図ります。	福祉課・こども課・健康課・学校教育課・芦屋健康福祉事務所	拡充	年1回実施	年1回実施	年1回実施	A	すくすく学級 級 に関係各課との連携により、入所、入 を に行う。当 事業と 様の担当課で 成されている、の会 体との 合等整理が必要。	師等の 職及び当 事業と し担当課で成されている、 育 相談と 合し、情報共 と合わせて、 師等の 職を交えた方 の検討を行うことにより充実を図ります。	拡充

現行計画の記載内容					実績			評価・現状課題		計画	
分野別	事業名	事業内容	担当課	方向性	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績	評価	現状と課題	事業内容	5年後に向けた方向性
3(4)思 期保健対策の充実	性に関する正しい知識の普及	健全母性育成事業	健康課・健康福祉事務所	新規	者の心と体の相談(年3回実施)助産師による10~20代を対象とした性や性感、望まない妊娠の予等に関する別相談。的な知識や新の情報を提供する。相談者延べ11人。	者の心と体の相談(年3回実施)相談者延べ8人健康学習会(年2回実施)市内高等学校2校の生を対象に、性や性感の講話・妊婦体験などを実施し、いのちの大きさをえる講を開催。講延べ参加者535人。	者の心と体の相談(年3回実施)相談者延べ5人健康学習会(年2回実施)対象は市内高等学校2校の生。内容は22度とじ。講延べ参加者585人。	A	H20年性クラミジア感者の16.1は10代がめている。クラミジアの感は不妊のともなる。また、望まない妊娠の予は児童の予にもつながり、今後も思期において知識を普及していくことは重要な取り組みと考えている。現は高等学校を対象に健康学習会を開催している。	性知識の情報については、学校(業等)が及ぼす影響が大きくなってきている。今後中学校など対象の拡大を検討している。	継続
		家庭における性教育実施の啓発活動	少年愛護センター	継続	トの	トの	トの	C	的なかわりはないが、児童生にませたくないの回収	今後も取り組予定はないが、携電話等での情報イトに続しないよう愛護員などを対象に研する。	
	喫煙や物に関する教育指導	出講座「喫煙止教育」	健康課	継続	1人5回	1人4回	参加者なし	B	世煙デー等の時期に広報等で煙希望者をしているが、希望者が減少している。	別の煙事業を周知する。	継続
		少年タコ対策事業	学校教育課・芦屋健康福祉事務所	継続	・煙グッズ(マグネット等)の配(3校) ・少年タコ対策事業報作成(200) ・健康教育講(市内3小学校)	・小・中学校における煙教育の実施(2校) ・養護教諭連会	・小学校・高校における煙教育の実施(2校)	C	・事業は、縮小実施していたが、25年4月から受動喫煙止の実施にけて、煙教育を実施する必要がある。	小・中・高校への煙教育実施 ・芦屋市教育員会及び養護教諭連会等と連携の上、煙教育の計画立案、計画的実施	煙教育の
こころの問題	「対」普及活動	学校教育課	継続	民約3000人に対し啓発活動を実施。小・高校における物物止講習会の実施。	民約2600人に対し啓発活動を実施。小・中・高校における物物止教室の実施。	民約3300人に対し啓発活動を実施。小・高校における物物止教室の実施。	A	に年層の物者が増加していることから、それらに対する啓発活動をする必要がある。	民に対する啓発活動の実施。物物止教室による年層(に小・中学校)への正しい知識の普及及び啓発の実施。	年層に対する啓発活動の	
3(5)小児の充実	クールカウンセリング事業	学校教育課	継続	6時間35配かける5校(小2,中3)配。相談1362件教育相談実5人延べ6人教育相談実192件延べ348人	6時間35配かける5校(小2,中3)配。相談1013件教育相談実15人延べ15人教育相談実33件延べ589人	6時間35配かける5校(小2,中3)配。相談1155件教育相談実8人延べ8人教育相談実27件延べ583人	A	配時間に対し相談希望者が多いため、相談内容によっては打出教育センター及びカウンセリングセンター等を活用する。	配にない学校からも児童生、保護者が相談しやすくなるようを整備する。時間でな教職員向けの研やコンルテーションの持ち方を夫する。	継続	
	芦屋市立休日応診所	健康課	継続	3500	2456	2622	A	毎月広報やームーに載し周知する		継続	
	当制	健康課	継続	3762	2660	2841	A	毎月広報やームーに載し周知する		継続	
小児対応制	健康課	継続	2993	2906	2828	A	毎月広報やームーに載し周知する		継続		

現行計画の記載内容					実績			評価・現状課題		計画	
分野別	事業名	事業内容	担当課	方向性	平成21年度 実績	平成22年度 実績	平成23年度 実績	評価	現状と課題	事業内容	5年後に向け た方向性
	定期予 事業	予 います。 ます。 法に づき定期の予 者に対して 度 を行って をし		継続	BC 予 率 92.7	101.8	93.7	A	者の が行えて いないので、 対策が必 要。	予 法に づいた定期予 期の児に対して、 事業を 別通知や保育所・幼 ・学校への通知を 行い、周知に めています。	継続